



祝

国立西洋美術館 「ル・コルビュジエの建築作品」 世界文化遺産登録決定！

たくさんの応援ありがとうございました！



コルビおじさん



▲決定の瞬間、喜びを分かち合う様子（7月17日区役所にて）
前列左から黒田台東区町会連合会長（たいとう推進協議会副会長）、
堀越台東区議会副議長（推進議員連盟副会長）、服部台東区長、
宮田文化庁長官、馬淵国立西洋美術館長

▼トルコ・イスタンブールの世界遺産委員会会議場にて
左から石山会長、太田議長



7月17日（日）17:14（現地時間 7月17日（日）11:14）、トルコのイスタンブールで開催された第40回ユネスコ世界遺産委員会において、日本の国立西洋美術館を構成資産に含む「ル・コルビュジエの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献－」（7カ国共同推薦）の審議が行われ、**世界遺産一覧表に「記載」することが決定されました。**

国立西洋美術館の登録により、日本の世界遺産は20件（文化遺産16件、自然遺産4件）となり、東京都としては初めての世界文化遺産となります。



©国立西洋美術館

世界遺産登録推進3団体会長によるコメント



台東区長 服部征夫

（台東区国立西洋美術館世界遺産登録推進会議会長）

国立西洋美術館を含む「ル・コルビュジエの建築作品」が世界文化遺産として登録決定され、大変うれしく思います。これまで登録推進活動にご尽力いただいた皆様、ご支援いただいた区民の皆様にご心より感謝申し上げます。

私は、国立西洋美術館を設計したル・コルビュジエ、建設に携わった3人の日本人建築家（前川國男氏、坂倉準三氏、吉阪隆正氏）、そして建設のきっかけとなり、「松方コレクション」として多くの西洋美術作品を収集した松方幸次郎氏の功績を讃えたいと思います。

これから台東区は、地域と一体となって、貴重な文化遺産を大切に守り、次の世代にしっかり継承してまいります。そして、「世界遺産のあるまち」台東区として、今まで以上に国際文化観光都市の魅力や素晴らしさを世界に広く発信していきます。



台東区議会議長 太田雅久

（台東区議会国立西洋美術館本館世界遺産登録推進議員連盟会長）

ここトルコ・イスタンブールで、世界遺産登録が決定された瞬間に立ち会ったことを本当に嬉しく思います。

台東区議会は、区民の皆様や区と一緒にあって、推進活動に取り組んでまいりました。長い道のりではありましたが、三度目の正直でようやく登録となり、本当に嬉しく思います。都心にあり、国内外からこれほどアクセスしやすい世界遺産は、国内ではまずありません。

「都内で初の、身近な世界文化遺産」となることは、さらに大きな人の流れを呼び込み、我が台東区の魅力を一層高める契機となることでしょう。

これまで世界遺産登録に向けご尽力いただきました関係者の皆様並びに区民の皆様にご感謝申し上げます。



国立西洋美術館世界遺産登録たいとう推進協議会会長 石山和幸

国立西洋美術館が、世界文化遺産に登録され、本当に嬉しく思います。世界遺産委員会の会場で、この瞬間を迎えることができ、感激しています。

活動を始めて10年がたちます。今日のこの瞬間を、首を長くして待っていました。イコモス勧告で記載と出たときは、ほっとした気持ちでしたが、今回、登録が決定して、これまで一緒に活動をしてくださいました皆様、特に町方のみなさんに本当に感謝の気持ちで一杯です。

上野、アメ横、そして台東区のまちをさらに盛り上げていきたいと思っています。

これまでの経緯

平成19年 (2007年)	9月	フランスから日本政府へ共同推薦の依頼 国立西洋美術館（本館）「世界遺産暫定一覧表」へ記載
	12月	国立西洋美術館（本館）国の重要文化財（建造物）指定
平成20年 (2008年)	2月	関係国を代表して、フランス政府がユネスコ世界遺産センターへ推薦書「ル・コルビュジエの建築と都市計画」を提出
	10月	イコモス（※）による現地調査
平成21年 (2009年)	5月	イコモス（※）から「記載延期」とする勧告
	6月	第33回世界遺産委員会（スペイン）で審議 →「情報照会」決議
平成23年 (2011年)	2月	関係国を代表して、フランス政府がユネスコ世界遺産センターへ「ル・コルビュジエの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献－」として追加情報を提出
	5月	イコモス（※）から「不記載」とする勧告
	6月	第35回世界遺産委員会（フランス）で再審議 →「記載延期」とする決議
平成27年 (2015年)	1月	関係国を代表して、フランス政府がユネスコ世界遺産センターへ推薦書「ル・コルビュジエの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献－」を提出
	8月	イコモス（※）による現地調査
平成28年 (2016年)	5月	イコモス（※）から「記載」とする勧告
	7月	第40回世界遺産委員会（トルコ）で審議 →「記載」とする決議

※イコモス（ICOMOS）：国際記念物遺跡会議。世界遺産委員会の文化遺産に関する諮問機関

区分	内容
1 登録（記載）	世界遺産一覧表（リスト）に登録（記載）する。
2 情報照会	追加情報の提出が求められ、次回以降のユネスコ世界遺産委員会の審議に回すもの。
3 記載延期	より綿密な調査や推薦書の本質的な改定が必要。推薦書の再提出後、再度、イコモスの審査を受ける。
4 不記載	世界遺産一覧表（リスト）への登録（記載）にふさわしくない。



フランス



スイス



ベルギー



ドイツ



アルゼンチン



インド



日本



世界文化遺産
「ル・コルビュジエの建築作品
—近代建築運動への顕著な貢献—
 原文：L'Œuvre architecturale de Le Corbusier
 — Une contribution exceptionnelle au
 Mouvement Moderne

今回世界遺産に登録されたのは、「ル・コルビュジエの建築作品」17資産です。大陸をまたぐ世界遺産は本件が初めてとなります。

1920年代初頭から1960年代半ばにかけて設計・建設された「ル・コルビュジエの建築作品」は、半世紀にわたる「近代建築運動（※）」の歴史を証明するものです。世界各地に所在し、国境を越えた一連の資産は、20世紀の建築に大きな影響を与えました。

※19世紀以前の様式建築を批判し、近代社会の現実に合った建築をつくろうとする運動。

構成資産一覧

1	ラ・ロッシュ＝ジャンヌ邸
2	ペサックの集合住宅
3	サヴォア邸と庭師小屋
4	ポルト・モリトーの集合住宅
5	マルセイユのユニテ・ダビタシオン
6	サン・ディエの工場
7	ロンシャンの礼拝堂
8	カップ・マルタンの休憩小屋
9	ラ・トゥーレットの修道院
10	フィルミニの文化の家
11	レマン湖畔の小さな家
12	イムブル・クラルテ
13	ギエット邸
14	ヴァイセンホフ・ジードルングの住宅
15	クルチェット邸
16	チャンディガールのキャピトル・コンプレックス
17	国立西洋美術館



ル・コルビュジエ
 Le Corbusier 1887-1965

本名：
 シャルル・エデュアル・ジャンヌレ
 ・スイスのラ・ショー＝ド＝フォン生まれ
 ・のちにフランス国籍取得

ル・コルビュジエは、時計職人である父親の家業を継ぐため、スイスのラ・ショー＝ド＝フォンの美術学校で彫刻や彫金を学びました。在学中、先生であるシャルル・レプラトニエから建築を学ぶことを勧められ、建築家として人生の一步を踏み出します。

その後、活動の場所をフランス・パリに移し、数多くの建物を設計しました。彼は「ドミノシステム」、「近代建築の5原則」、「モデュロール」、「無限発展美術館」などの建築の新しいアイディアを提案し、20世紀の建築や都市計画に大きな影響を与えました。

ル・コルビュジエは建築家として活動したほかに、絵画、彫刻などの芸術作品の制作や家具のデザイン、執筆活動などにも取り組み、多くの作品を残しました。

—東アジア唯一のル・コルビュジエ建築作品 国立西洋美術館—

国立西洋美術館ができるまで

1910～20年代にかけて、当時、川崎造船所社長であった松方幸次郎が日本に西洋美術を紹介するため、ヨーロッパ各地で絵画、彫刻等の美術作品を収集しました。これらは「松方コレクション」と呼ばれています。

第二次世界大戦後、松方コレクションは、一時フランス政府の所有となりましたが、昭和28（1953）年、返還の話合いの結果、新しい美術館を作ることを条件に寄贈・返還されることになりました。

美術館の設計には、世界的な建築家ル・コルビュジエが選ばれました。

ル・コルビュジエは、昭和30（1955）年11月に日本を訪問し、上野公園内の建設予定地を調査しました。ル・コルビュジエが作った設計図をもとに、ル・コルビュジエの弟子である前川國男、坂倉準三、吉阪隆正の3人が協力して美術館の建設を行いました。

そして、昭和34（1959）年3月に美術館は完成し、同年6月10日に開館しました。

国立西洋美術館（本館）は、平成19（2007）年、国の重要文化財に指定されています。



株式会社川崎造船所
 (現川崎重工株式会社)
 初代社長 松方幸次郎
 写真提供：川崎重工株式会社



1960年頃の国立西洋美術館
 写真提供：国立西洋美術館

建築的特徴

1959年に完成した本館は、ル・コルビュジエの「無限発展美術館」の考え方を基にしてできた美術館です。「モデュロール」などのル・コルビュジエの様々なアイディアが良く表現されています。

●モデュロール

建築の寸法を決めるルールで、黄金比と身体のサイズを利用してつくった定規（基本寸法）です。

たとえば、人（183cmのヨーロッパの男性）が手をのびた高さ（226cm）を住宅の天井にちょうどよい高さで決めました。

このようにして、部屋、家具の大きさなども「モデュロール」で決めています。

●無限発展美術館

ル・コルビュジエは、巻貝が中心から出発して外に向かっていくように、コレクションが増えるにしたがって、建物の外側に展示室を追加していくことのできる「無限発展美術館」を構想していました。

本館はピロティや建物中心のホール、らせん状の回廊など、ル・コルビュジエの原理をもとにした様々な特徴が実現されています。



ピロティ

入り口部分の建物を柱で持ち上げて地上部分にできる吹き抜けの空間です。雨や強い日差しを避けるとともに、建物内外の流動性を増します。



19世紀ホール
 本館の中心に置かれたホール



2階展示室
 見通しのよい回遊空間

19世紀ホールを出発し、四角いホールの周囲をらせん状にぐるりと回るように展示室を歩いていきます。

上記3枚画像：©国立西洋美術館